

# 城北



令和4年1月1日現在	
総世帯数	3,730
総人口	7,844
男	3,744
女	4,100

**地区を支える  
役員の皆さんに  
聞く**



城北地区人権啓発推進協議会  
会長 古田 健司さん

人権啓発推進協議会は、人権啓発の円滑な推進に寄与することを目的として各町会から選出された47人で構成されています。

人権啓発に関する研修会や具体的問題についての討論会の開催、その他目的達成のため必要と認めた事業を行っています。本年度は8月に講演会「性の多様性を考える」、11月に上田市の「戦没画学生慰霊美術館 無言館」の視察を行いました。

コロナ禍で活動しにくくなっている状況のなかで感染対策をしてビデオを使用した松本市人権共生課による役員への研修も行われています。講習会をとおして参加者の



▲講演会であいさつする古田さん

方に人権について自分のこととして理解していただけるように活動しています。

会長になって人権ということが昔に比べて捉え方が幅広いと感したそうです。

「人権とは自分らしく生きると共に、自分の権利それが自分勝手にならないよう、人が人らしく生きられるようになることが人権を認める事。『他人に受け入れられない自分の苦しみをどう理解してもらうか、自分や他人を理解し合える社会を作る』そういう気持ちで活動できたら良いと思います」と語ってくれました。

城北地区  
人権啓発推進協議会  
**視察研修**

11月12日、上田市にある「戦没画学生慰霊美術館 無言館」を16人が訪れました。

この美術館は、信濃デッサン館の館主窪島誠一郎氏が中心となって、平成9年の春に全国の戦没画学生のご遺族より寄託されている遺作・遺言、戦地からの絵手紙や、生前使用していた愛用品などを展示する目的で開館されました。

古安曾の丘陵に建つ無言館には約90点ほどの絵画と遺品等が展示され、別館の「傷ついた画布のドーム館」にも画学生のデッサンや下絵およそ350点がドーム型天井に貼り込まれて展示されていました。



▲無言館

無言館の壁には画学生の大小様々な大きさのキャンバスやスケッチの作品が展示されていて、家族、妻、恋人を描いた作品も多く見受けられました。通路には画学生たちの遺品や絵葉書等が展示されています。

作品を見ながらこれらの絵をどんな想いで作られたのかを思うと、色々な感情が湧いてきました。機会があれば鑑賞に行かれることをお勧めします。

他地区をめぐり  
その1 **安原地区の文化財を訪ねる**

文化部は市内の他地区を巡り文化や歴史を学ぶ講座を始め、初回は安原地区でした。

11月16日、後藤講師の案内で、田町の北東に隣接する安原横丁の撰取院跡地と常法寺小路へ行き、安原地区歴史研究会の皆さん方と合流し、話を聞きました。

石川数正以来の城下町づくりで善光寺街道と街並みを学び、幹線道路が防衛策で、屈曲していたのに驚きました。撰取院墓地の北に民権活動

家として著名な木下尚江の生家跡地があり、家族のことなど話を聞きました。

※旧宅は島立の歴史の里に移築されました。屋敷地を数分北上すると天白神社と十王堂跡、隣接して明治時代に文部官僚・教育者として活躍し、松本高等学校誘致にも尽力した澤柳政太郎生地跡がありました。

さらに北上、道路沿いの共同の辻井戸跡で深いマンホールを覗き東の丁へ、長野県宝橋倉家住宅に到着。低い天井や土間・狭い急な階段をそっと歩きながら、懐かしい感慨にふけりました。その後、安原公民館で研究会の皆さんに文化遺産保存活動についてお話を伺いました。



▲研究会の皆さんからお話を聞く一行



▶石積み美しい辻井戸。深い!

聖十字幼稚園  
(12/20)



のびのびひろば  
(12/21)



しめ縄作り講座 (12/14)

講師を囲んで  
教わりました。



### クリスマス会

沢村  
児童センター  
(12/24)



蟻ヶ崎台町会  
(12/24)



もちつき大会  
(12/28)

重たい杵でも  
がんばりました!



## 城北の年末年始

### 三九郎 1/8・1/9

### 書初め大会 1/4

